

平成24年度 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻 修士課程
第一次試験問題

【問題】

生命体としての自分を顧みるとき、生命進化の過程でさまざまなことが私たち一人一人の中に刷り込まれてきた、記憶されてきたことに驚かされます。

問題文を読み、特に傍線部分の①と②に照応するあなたの考えを1000字程度で述べなさい。

傍線部分①については、あなた自身が「これこそ生命記憶だ」と感じたことがある、あるいは、感じている体験を具体的に述べなさい。

傍線部分②については、創造者、表現者として、あなたが身につけたいこと、表現したいことが、この文脈ではどのように位置づけられるかを述べなさい。目指す表現を明示し、そのメディア、方法、素材、訴求対象、社会的・歴史的意義、研究したい具体的なテーマ、などを交えて述べること。

You may write in English (about 400 words; use the blank backside of the sheet; write in clear hand-writing).

※この問題用紙は、試験終了後に回収します。

平成24年度 東京芸術大学大学院 美術研究科 先端芸術表現専攻
修士課程 第一次試験問題

【課題文章】

※著作権の問題により、課題文の掲載をしております。

出典：

杉浦康平『多主語的なアジア——杉浦康平デザインの言葉』

P12-15 「生命記憶」、そして「照応」しあうこと……

下線①部分 「つまり、細胞や ～ 呼ばれるものだ。」

P16-17 アジアのカタチ・アジアの心

下線②部分 「人間には、～ ではないだろうか。」